

<書評>

師の背中から学ぶ疫学の楽しさ

「基礎から学ぶ 楽しい疫学 第5版」

中村 好一●著

評者 家入 香代(国際医療福祉大看護学科学科長・教授)

本書の著者である中村好一先生には、2001 年より自治医大公衆衛生学教室の研究会においてご指導をいただいていた。私にとって先生は、公衆衛生学・疫学の師匠であり、常に穏やかでありながら、学問に対しては一切の妥協を許さない「優しく厳しい」研究者である。そんな中村先生の姿勢は、本書全体の随所に息づいている。

『基礎から学ぶ楽しい疫学』は、初版刊行以来、疫学を学ぶ多くの学生・専門職に読み継がれてきた名著である。第5版においても、その基本的な姿勢は変わらない。すなわち、「疫学は決して難解な理論の集積ではなく、現実の健康問題を考えるための思考の道具である」という一貫したメッセージである。本書は、専門用語や数式に立ちすくむ読者に対し、「なぜそう考えるのか」「何がわかれば次に進めるのか」という問いを丁寧に投げかけ、章をめくるごとにその答えへと導いていく構成になっている。

看護職をはじめとするコメディカルにとって、疫学は「必要だとわかっているけど苦手意識を持ちやすい分野」である。しかし本書では、疾病頻度、研究デザイン、バイアスや交絡といった概念が、臨床や地域での実践と結びつけて平易に説明されており、「自分の疑問に疫学がどう応えるのか」が自然に理解できる。読み進めるうちに、先ほどまで曖昧だった疑問が、次の章で静かに解さほぐされていく

感覚を味わえる点は、本書ならではの魅力である。

また、鉄道をこよなく愛する中村先生らしく、随所にちりばめられた鉄道のイラストは、読者の緊張を和らげると同時に、「学ぶことの楽しさ」を視覚的にも伝えてくれる。学問書でありながら、どこか温かみを感じさせるゆえんであろう。

今回の第5版で特に注目すべきは、著者自身が序文で「一番の目玉」と述べている巻末付録である。疫学で用いられる数式や統計的考え方を理解するための数学の基礎が、初学者にもわかるよう丁寧に整理されており、「わからないまま先に進まざるを得なかった」読者への強い配慮が感じられる。これは、長年教育の現場に立ち続けてきた著者だからこそ到達できた改訂であろう。

本書は、疫学を初めて学ぶ学生だけでなく、かつて学んだ疫学を改めて実践に結びつけたい医療・保健専門職にとっても、再読する価値の高い一冊である。師の背中から学んだ「考える疫学」の姿勢が、今版でも確かに受け継がれている。

●「基礎から学ぶ 楽しい疫学 第5版」

A5・頁 240 2026 年 01 月

定価：3,520 円(本体 3,200 円+税 10%)

[ISBN978-4-260-06273-2] 医学書院刊